

海洋環境レポート

平成29年版(平成28年1月～12月データ)



海岸に漂着したごみ



第七管区海上保安本部 環境防災課

目 次

第 1) 海洋汚染の現状

1 概要	1
図 - 1 海洋汚染発生確認件数の推移	
図 - 2 海洋汚染の海域別確認件数	
2 油による汚染.....	2
表 - 1 油の汚染による海域別確認件数（平成 2 8 年）	
表 - 2 油の汚染による原因別件数（平成 2 8 年）	
3 油以外による汚染.....	3
表 - 3 油以外の汚染による海域別確認件数（平成 2 8 年）	
表 - 4 油以外の汚染による原因別件数（平成 2 8 年）	

第 2) 海岸漂着物の現状

1 概要	4
2 ポリ容器の漂着確認状況.....	4
図 - 3 ポリ容器の漂着数の推移（県別：過去 3 年）	
3 医療系廃棄物の漂着確認状況.....	5
図 - 4 医療系廃棄物の漂着数の推移（県別：過去 3 年）	
4 その他漂着物の漂着確認状況.....	5

第 3) 海洋環境保全啓発活動の現状

1 概要	6
2 活動内容.....	6
3 漂着ゴミ分類調査.....	8
4 海上保安協力員の活動.....	8
5 啓発活動実施状況.....	9
6 図画コンクール.....	10
受賞作品の紹介	
7 平成 2 8 年 海岸漂着ゴミマップ	

第1) 海洋汚染の現状

1 概要

平成28年に第七管区海上保安本部で確認された海洋汚染の発生件数は、54件で前年と同数でした。

汚染の内訳は、油による汚染が42件、油以外による汚染が12件でした。(図-1参照)

海域別にみると、九州北西海域が32件と最も多く、瀬戸内海西部12件、関門海峡5件、豊後水道3件、有明海1件、九州南海域1件でした。(図-2参照)

図-1 海洋汚染発生確認件数の推移

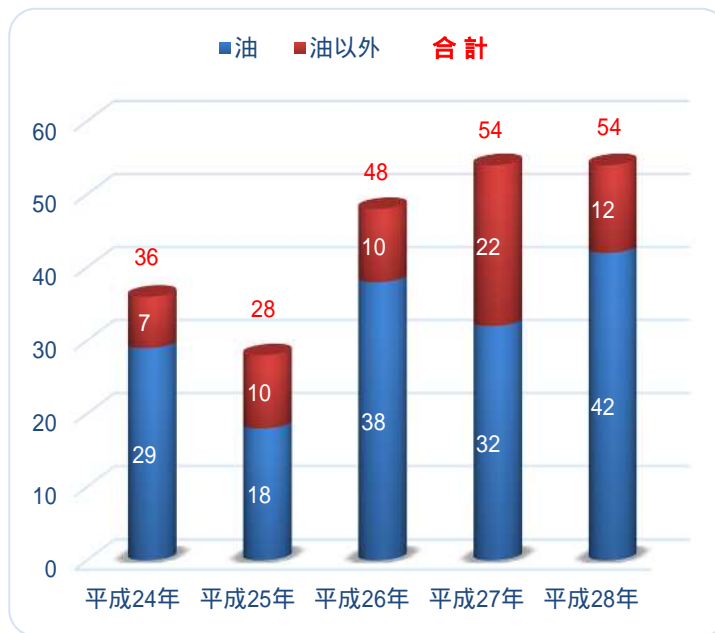


図-2 海洋汚染の海域別確認件数



2 油による汚染

平成28年に、当管区で確認された油による汚染は、42件で昨年に比べ10件増加しています。排出源は、船舶からの排出が30件、陸上からの排出が2件、排出源不明が10件でした。（表-1参照）

表 - 1 油の汚染による海域別確認件数（平成28年）

発生源	瀬戸内海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北西	日本海沿岸	九州南	合計
船舶	2	3	3	1	20	0	1	30
陸上	1	0	0	0	1	0	0	2
不明	1	1	0	0	8	0	0	10
合計	4	4	3	1	29	0	1	42

原因別にみると、原因不明11件を除き、燃料バルブ誤操作等の過失による汚染が10件と最も多く、次いで配管パッキン等経年劣化等の不可抗力による汚染が8件、海難による汚染が8件、故意による汚染が5件でした。（表-2参照）

表 - 2 油の汚染による原因別件数（平成28年）

原因	瀬戸内海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北西	日本海沿岸	九州南	合計
故意	1	0	0	1	2	0	1	5
過失	1	1	0	0	8	0	0	10
不可抗力	0	2	1	0	5	0	0	8
海難	0	0	2	0	6	0	0	8
不明	2	1	0	0	8	0	0	11
合計	4	4	3	1	29	0	1	42



原因不明の海上浮流油



転覆船から流出している油

3 油以外による汚染

油以外による汚染は12件で、内訳は廃棄物による汚染が9件と最も多く、有害液体物質の汚染が1件、工場排水による汚染が1件、その他が1件でした。

排出源は、船舶からの排出が2件（廃棄物2件）で、陸上からの排出が9件（廃棄物7件・有害液体1件・工場排水1件）、その他（1件）でした。（表-3参照）

表-3 油以外の汚染による海域別確認件数（平成28年）

区分		瀬戸内海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北西	日本海沿岸	合計
廃棄物	船舶	0	0	0	0	2	0	2
	陸上	6	1	0	0	0	0	7
有害液体	船舶	0	0	0	0	0	0	0
	陸上	1	0	0	0	0	0	1
工場排水（陸上）		1	0	0	0	0	0	1
その他		0	0	0	0	1	0	1
合計		8	1	0	0	3	0	12

原因別に見ると、故意によるものが10件、不可抗力及び原因不明が各1件でした。（表-4参照）

表-4 油以外の汚染による原因別件数（平成28年）

原因別	瀬戸内海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北西	日本海沿岸	合計
故意	7	1	0	0	2	0	10
過失	0	0	0	0	0	0	0
海難	0	0	0	0	0	0	0
不可抗力	1	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	1	0	1
合計	8	1	0	0	3	0	12



海中に投棄された廃棄物（大型荷役装置の一部）

第2) 海岸漂着物の現状

1 概要

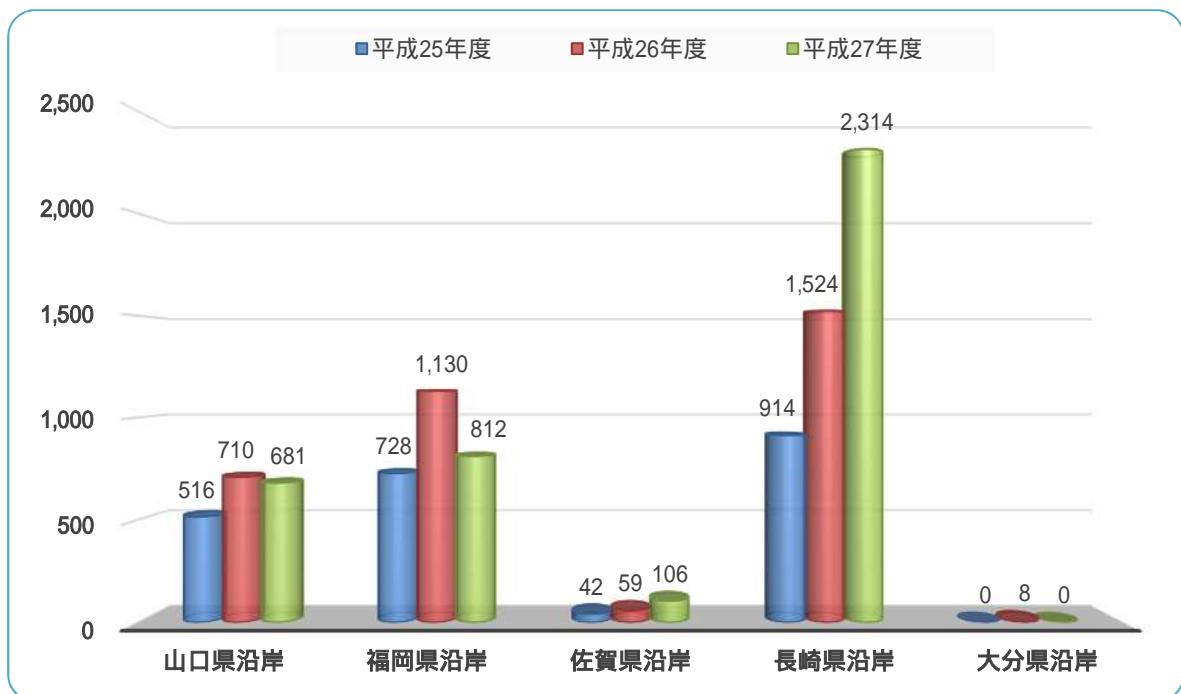
当管区の海岸において、毎年冬場を中心に外国製と考えられるポリ容器及び薬瓶や注射器等の医療系廃棄物の漂着が多く確認されています。

2 ポリ容器の漂着状況

環境省の発表によると、平成27年度に漂着したポリ容器は、山口県沿岸に681個、福岡県沿岸に812個、佐賀県沿岸に106個、長崎県沿岸に2,314個が確認されています。(図-4参照)

ポリ容器の中には、韓国語や中国語が表記された外国製のものが多数確認されており、また強酸性液体や強アルカリ性液体が残っているものも確認されていますので、発見した場合は、むやみに触らず、最寄りの地方公共団体や海上保安部署に通報して下さい。

図-3 ポリ容器の漂着数の推移(県別:過去3年)



数値は環境省まとめ



海岸に打ち上がったポリ容器



韓国語で表示されたポリ容器

3 医療系廃棄物の漂着確認状況

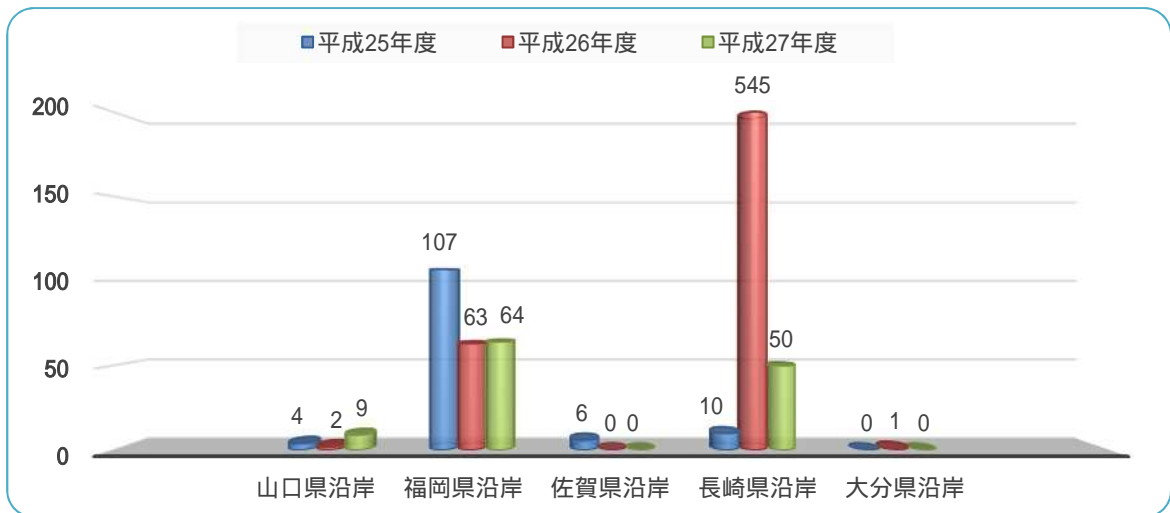
環境省の発表によると、平成27年度に漂着した医療系廃棄物は、山口県沿岸に9個、福岡県沿岸に64個、長崎県沿岸に50個の漂着が確認されています。(図-5参照)

医療系廃棄物が発見された場合、地方公共団体が回収し処理を行っています。

医療系廃棄物の中には、注射器や内容物が残っている薬瓶も確認されています。

発見した場合には、感染被害のおそれもあることからむやみに触らず、最寄りの地方公共団体や海上保安部署に通報して下さい。

図-4 医療系廃棄物の漂着確認の推移(県別:過去3年)



数値は環境省まとめ

4 その他廃棄物の漂着確認状況

当管区の各県沿岸には、ポリ容器や医療系廃棄物の他にも、日常生活で発生する家庭ごみや破損した漁具類、また、外国製と考えられるごみも漂着しているのが確認されています。



第3) 海洋環境保全啓発活動の現状

1 概要

環境基本法の趣旨に則り、的確な環境保全施策を展開していくため、海事及び漁業関係者のみならず広く一般市民の方も対象に、海洋環境保全思想の普及、啓発を積極的に推進しています。

2 活動内容

管内の各海上保安部署において、6月の海洋環境保全推進月間を中心に、園児及び小中学生を対象とした海洋環境保全教室、海事・漁業関係者及び一般市民を対象とした海洋汚染防止講習会等を開催しました。

そのほか、環境パネル展示、リーフレット等の啓発物品配布、のぼりや電光掲示板による周知、訪船指導、地方公共団体と連携した合同パトロールや海浜清掃等に併せた啓発活動を実施しました。



海洋環境保全教室(環境紙芝居)



海洋環境保全教室(環境パネル)



海洋汚染防止講習会



海洋汚染防止講習会



環境パネル展



リーフレット配布



合同パトロール出発式



廃棄物投棄防止合同パトロール



海浜清掃



海浜清掃



訪船指導



電光掲示板による啓発活動

3 漂着ゴミ分類調査

管内の各海上保安部署では、主に小・中学生及び高校生の皆さんの協力を得て、海浜清掃活動に併せて海岸の漂着ゴミ分類調査を実施しています。

平成28年は、仙崎・若松・三池・宇部地区の5箇所の海岸において、540人が参加し、合計2,143kgの漂着ゴミを回収しました。

そのうち5箇所の海岸では、回収したゴミを分類調査した結果、プラスチック類や発泡スチロール等の石油系製品が、半数以上を占めていることが分かりました。(平成29年版 海岸漂着ゴミマップ(平成28年1月～12月データ)参照)



ゴミ回収の様子



漂着ゴミ分類調査の様子

4 海上保安協力員の活動

海上保安協力員制度は、「海事・漁業関係者や一般市民に対する海上防犯及び海洋環境保全思想の普及・啓発」を目的として、海上保安協会が運営する制度です。

海上保安協力員は、全国の海上保安協会支部に所属して、地域に密着して海浜等の防犯パトロール、不審事象や海洋汚染の通報、海事・漁業関係者及び一般市民への海上防犯及び海洋環境保全思想の普及・啓発活動を行っています。

当管内では、平成29年4月1日現在、116名の方が海上保安協力員に指名されています。



海浜パトロールの様子



海洋環境保全教室の様子

海上保安協力員

5 啓発活動実施状況

活動分類	活動内容分類	主な活動内容等	実施回数	参加人数 実施隻数 実施箇所
指導	講習会	・海上保安協力員連絡会議 ・海洋汚染防止講習会等	42回	2,299名
	訪船指導	・漁協・マリーナ等の訪船指導	159回	796隻
	訪問指導	・漁協・海事関係機関の訪問指導	59回	210箇所
	海上工事 作業指導	・海上工事事業者に対する指導	10回	30名
啓発活動	周知・広報関連	・横断幕や掲示板等による周知	592回	
	海上保安官が直接的に行う啓発活動	・リーフレット配布 ・合同パトロール等	26回	10,096名
	環境パネル展	・イベントでの環境パネル展示	33回	6,340名
	講習会 (一般市民向け)	・会議等での講習会	10回	517名
	講習会 (簡易水質実験)	・職場体験学習での環境教室	4回	79名
	講習会 (漂着ゴミ分類調査)	・海岸清掃に併せた漂着ゴミ分類調査	6回	309名
	講習会 (紙芝居等)	・環境教室での紙芝居等	42回	2,208名
	講習会 (その他)	・職場体験学習での講習会等	10回	354名
その他	図画コンクール 関連	・作品募集、表彰式、展示会等	97回	21,207名
	その他	・海浜清掃等	32回	5,184名

6 図画コンクール

海上保安庁では、小・中学生への海洋環境保全思想の普及・啓発を目的として、海上保安協会の協力を得て、平成28年6月1日(水)から同年9月8日(木)までの間、「第17回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」の作品募集を行いました。

当管区では、総数3,216点(小学生低学年の部1,333点、小学生高学年の部1,315点、中学生の部568点)の応募がありました。

応募作品は、福岡県美術協会の会員による審査を経て、海上保安庁(本庁)に送られ、厳正な審査ののち、小学生低学年の部の応募作品1点が海上保安庁長官賞に選ばれました。

他にも、第七管区海上保安本部長賞(各部門1点・計3点)、海上保安協会門司地方本部長賞(各部門1点・計3点)、優秀賞(各部門1点・計3点)を選出し、各海上保安部署において表彰式や作品展示会を行いました。



表彰式



作品展示会

受賞作品の紹介

海上保安庁長官賞



小学生低学年の部

大牟田市立みなと小学校(2年)

おおむら ゆうき
大村 悠貴さん

おめでとうございます



© JCG

第七管区海上保安本部長賞



小学生低学年の部

吉岐市立八幡小学校（3年）

しばはら はるな
柴原 暖和さん



小学生高学年の部

唐津市立浜崎小学校（6年）

よしはら かい
吉原 界さん

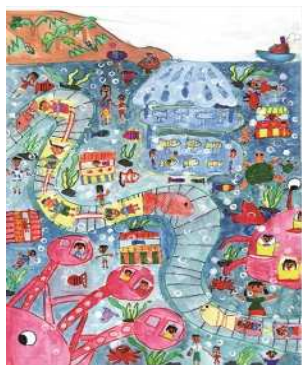


中学生の部

宗像市立河東中学校（3年）

ほんだ りょうか
本田 涼夏さん

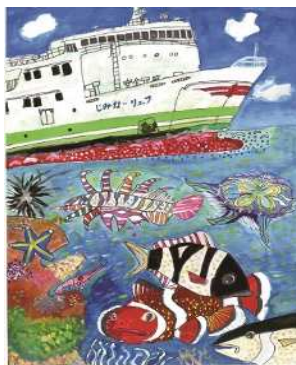
海上保安協会門司地方本部長賞



小学生低学年の部

大分市立判田小学校（3年）

もりさき さわ
森崎 咲羽さん



小学生高学年の部

新上五島町立有川小学校（5年）

はやし こうだい
林 巧悌さん



中学生の部

唐津市立鏡中学校（1年）

ありお ゆら
有尾 由楽さん

優秀賞



小学生低学年の部

福岡市立塩原小学校（1年）

ふじい せいや
藤井 惺也さん



小学生高学年の部

佐世保市立白南風小学校（6年）

たけだ
武田 みなみさん



中学生の部

宗像市立河東中学校（3年）

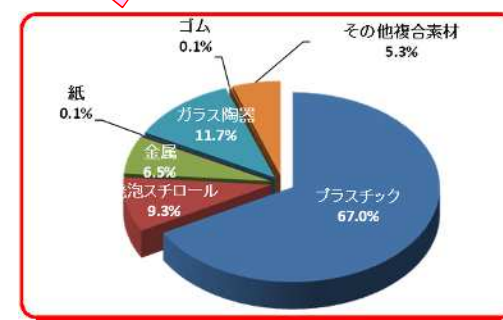
まつうら ゆきこ
松浦 優希子さん

平成29年版 (平成28年1月~12月データ)

海岸漂着ゴミマップ

漂着ゴミ分類調査結果

	平成26年		平成27年		平成28年	
	個数	%	個数	%	個数	%
プラスチック	2,583	66.5%	1,687	47.5%	1,996	67.0%
発泡スチロール	289	7.4%	251	7.1%	277	9.3%
金属	108	2.8%	380	10.7%	194	6.5%
紙	16	0.4%	18	0.5%	3	0.1%
ガラス陶器	507	13.1%	716	20.2%	349	11.7%
木	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	1	0.0%	7	0.2%	3	0.1%
布	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他複合素材	380	9.8%	491	13.8%	158	5.3%
合計	3,884	100.0%	3,550	100.0%	2,980	100.0%



漂着ゴミの種類別ワースト10

順位	漂着ゴミの種類	個数
1	飲料用プラボトル(ペットボトル)	438
2	硬質プラスチック破片	348
3	発泡スチロール破片	201
4	飲料ガラス瓶	195
5	飲料缶	177
6	その他プラスチック袋	172
7	プラスチックシートや袋の破片	171
8	食品容器(プラスチック)	169
9	ガラスや陶器の破片	154
10	飲料用ボトルキャップ(プラスチック)	121

海上保安庁では、主に小・中学生の皆さんのご協力を得て、海岸の漂着ゴミの分類調査を実施しています。

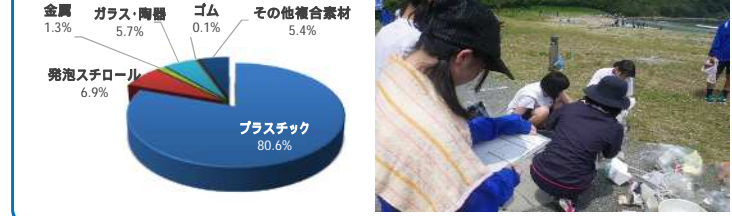
平成28年は、七管区内5ヶ所の海岸で540人が参加し、約2,143kgのゴミを回収しました。

回収ゴミを分類調査した結果、海岸にはさまざまなゴミが漂着し、中でも**プラスチック破片・ペットボトル・ボトルキャップ・発泡スチロール**等の石油系の製品が、**全体の約半数以上**を占めていることが分かりまし

福岡県北九州市(藍島白洲)
平成28年6月4日
67名参加 分類量450kg
北九州市 ボランティアのみなさん



山口県長門市(二位/浜海水浴場)
平成28年5月2日
185名参加 分類量400kg
山口県立大津緑洋高等学校日置校舎のみなさん



参加人数

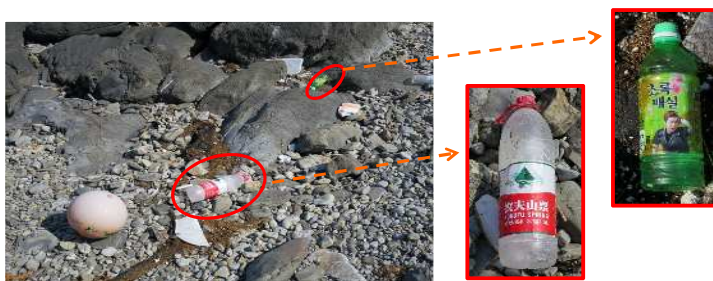
	平成26年	平成27年	平成28年
参加人数	1,141人	1,957人	540人
回収量	3,137kg	4,536kg	2,143kg

ここに掲載されている分類調査結果は、一般社団法人J-EANに送られ、日本及び国際的な海洋ごみの問題解決のために利用されています。

熊本県荒尾市(打越海岸)
平成28年7月19日
84名参加 分類量63kg
荒尾市立荒尾第一小学校のみなさん



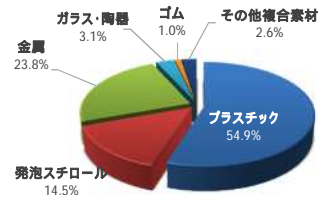
⚠️ ゴミの中には、外国語表記の容器等が多数確認されています。また、有害な液体や物質が含まれているおそれがあるので注意して下さい。



山口県長門市(大越の浜)
平成28年6月15日
54名参加 分類量30kg
山口県 長門市立通小学校のみなさん



山口県宇部市(常盤海岸・黒崎海岸)
平成28年7月10日
150名参加 回収量1,200kg
山口県 宇部市民のみなさん



未来に残そう青い海



JAPAN COAST GUARD
海上保安庁第七管区海上保安本部
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/>



JAPAN COAST GUARD FOUNDATION
公益財団法人 海上保安協会門司地方本部
<http://www.jcga.or.jp/>

